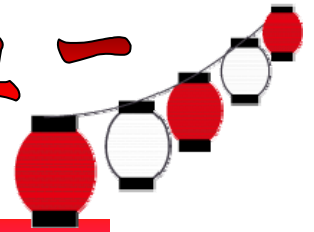


# 今回のおすすめメニュー



## 「夜市」

恒川 光太郎：著  
角川書店  
所蔵図書館：中央・石川図書館  
請求記号：913.6ツ

作者の方は  
沖縄在住で、うるま  
市にも来た事がある  
そうです。いつかお会  
いしたいですね。



この本の二つの物語をちょっと、あ・じ・み

## 夜市

大学2年のいずみは高校の同級生の裕司に誘われて、どんなものでも手に入ると言われている夜市に行った。そこには、世界の石や貝をとんでもない値段で売っている永久放浪者や、刀剣を売っている一つ目のゴリラ、老化を進めたり、遅めたりする薬を売っているのっぺらぼうなどがいた。その夜市に入った者は何か取引をしないと夜市から出られないという。裕司は小さい頃にそこで「野球選手の器」と、「弟」を取引したと言う。

## 風の古道

七歳の春に「私」が迷い込んだ古道。そこは未舗装で、桜の花見の季節の賑やかな公園のはずなのに誰もいない桜並木の道だった。十二歳の夏休みに友達のカズキと同じ古道を探し進んでいくと、そこは不思議な世界だった。

古道の茶店で、この古道から出るには正式な出入り口から出ないといけないと聞いた私とカズキは、茶店で出会ったレンという青年と一緒に出口へと向かった。レンは水牛で古道を歩いて旅をしているらしい。